

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			行動科学	人間の行動, ころや適応, 発達や学習の仕組みなどについて学習する	1 前	30	2	○			○			○	
2	○			医療倫理学	医の倫理を学び, 法的観点から医療と福祉の問題点を考える	1 前	30	2	○			○			○	
3	○			物理学	力学, 熱, 光の性質, 電気に関する物理学の基礎を理解する	1 前	15	1	○			○			○	
4	○			研究方法論	研究に必要なデータ集約と処理方法について学ぶ	1 前	15	1	○			○		○		
5	○			医学英語	医学生物分野のテキストで実践的な英文読解力を身につける	1 前	30	2	○			○			○	
6	○			文章表現法	日本語力を会得し, 表現伝達する能力を養う	1 前	30	2	○			○			○	
7	○			コミュニケーション学	自分の特性を知り, 他人を理解し, コミュニケーションスキルを学習する	1 前	30	1	○	△		○		○		
8	○			スポーツ・レクレーション演習	健康増進と維持をしながら, スポーツを通して学生間の交流を深める	1 前	15	1		○		○		○		
9	○			医療基礎Ⅰ	社会人・医療人として必要な能力を身につける	1 前	30	1	○	△		○		○		
10	○			医療基礎Ⅱ	社会人・医療人として必要な能力を身につける	1 後	30	1	○	△		○		○		
11	○			解剖学Ⅰ	正常な人体と構造について理解する. 特に筋・骨格系及び循環器系について学習する	1 前	60	2	○			○		○		
12	○			解剖学Ⅱ	人体諸器官の正常構造を関連する機能を含め理解する. 特に消化器系、神経系について学習する	1 後	60	2	○			○		△	○	

13	○		解剖学Ⅲ	人体諸器官の正常構造と機能を学び、標本で理解を深める	2 前	45	1	△		○	○		○	△	
14	○		生理学Ⅰ	循環、呼吸などのメカニズムを理解する	1 前	30	1	○			○			○	
15	○		生理学Ⅱ	運動制御の神経学的基礎や感覚機能のメカニズムを理解する	1 前	30	1	○			○			○	
16	○		生理学Ⅲ	代謝、ホルモン、自律神経などのメカニズムを理解する	1 後	30	1	○			○			○	
17	○		運動学Ⅰ	人体の基本構造と運動の仕組みを理解する	1 前	30	1	○			○		○		
18	○		運動学Ⅱ	運動学Ⅰの内容に演習を含み更に深める	1 後	30	1	○	△		○		○		
19	○		運動学Ⅲ	臨床で必要な運動学、動作分析を学ぶ	2 前	30	1	○	△		○		○		
20	○		人間発達学	ヒトの成長について各段階の発達の概要を理解する	1 後	15	1	○			○	△		○	
21	○		臨床心理学	心身障害者との接し方、臨床心理の歴史、心理面接や心理テストを学ぶ	1 後	30	1	○			○			○	
22	○		病理学概論	感染や先天異常、代謝や循環障害、炎症など疾患の成り立ちについて理解する	1 後	30	1	○			○			○	
23	○		内科学Ⅰ	臓器別及び系統的疾患の病態、症候、診療について学ぶ	1 後	30	1	○			○			○	
24	○		内科学Ⅱ	消化器及び系統疾患の病態、症候、診療を理解する	2 前	30	1	○			○			○	
25	○		整形外科Ⅰ	骨・関節の疾患と治療法を学ぶ	1 後	30	1	○			○			○	
26	○		整形外科Ⅱ	整形外科疾患の診断、治療、リハビリテーションについて学ぶ	2 前	30	1	○			○			○	
27	○		神経内科学Ⅰ	脳神経の機能と障害など基礎を知り、その所見を理解する	1 後	30	1	○			○			○	

28	○		神経内科学Ⅱ	脳血管疾患, 感染性疾患など疾患別に, その特徴を理解する	2 前	30	1	○				○			○	
29	○		精神医学総論	ひとの精神機能と各種精神疾患の特徴や治療法を理解する	1 後	30	1	○				○		○		
30	○		小児科学	成長と発達, 栄養, 小児保護, 小児の疾患について理解する	1 後	15	1	○				○			○	
31	○		外科学	外科の歴史と特徴, 無菌法, 損傷, 腫瘍, 輸血, 臓器移植等を知る	1 後	15	1	○				○			○	
32	○		脳神経外科学	神経系の臨床解剖, 頭蓋内圧亢進, 脳血管障害, 脳腫瘍, 頭部外傷について学ぶ	1 後	15	1	○				○			○	
33	○		放射線医学	放射線の種類と性質, 人体への影響, 治療法について理解する	2 後	15	1	○				○			○	
34	○		臨床医学	救急症候の対応や薬理学、皮膚科、泌尿器領域の疾患などを学ぶ	2 前	30	1	○				○			○	
35	○		社会福祉論	社会福祉の考え方や歴史, 社会福祉技術の実践について理解	1 前	30	2	○				○			○	
36	○		リハビリテーション概論	目的や歴史, 他職種の役割, 社会保障制度について学ぶ	1 前	30	1	○	△			○		○		
37	○		理学療法概論Ⅰ	理学療法の全体像を理解し, その資質についても考える	1 前	30	1	○	△	△		○	△	○		
38	○		理学療法概論Ⅱ	理学療法概論Ⅰを踏まえ、理学療法を具体的に理解する	1 後	30	2	○	△	△		○		○		
39	○		臨床運動学	正常運動をもとに臨床での患者治療の立場から運動を理解する	2 後	20	1	○	△			○		○		
40	○		運動生理学実習	三次元動作解析, 筋機能解析など評価測定機器の活用を学ぶ	2 後	30	1	○	△			○		○		
41	○		理学療法評価学Ⅰ	評価の意義を考えながら可動域など基本的な評価技術を習得する	1 前	30	1	○	△			○		○		
42	○		理学療法評価学Ⅱ	前期同様に意義を考えながら筋力評価法を身につける	1 後	30	1	○	△			○		○		

43	○		理学療法評価学Ⅲ	扱う各種評価について意義を理解し, その方法を身につける	2前	60	2	○	△		○	○		
44	○		理学療法評価学演習	臨床現場での見学や体験を通し、理学療法評価技術を学ぶ	2前	20	1	△	○	△	○	○		
45	○		中枢疾患運動療法Ⅰ	脳血管障害に対する運動療法を理解する	2前	20	1	○	△		○	○		
46	○		中枢疾患運動療法Ⅱ	パーキンソン病, 失調症に対する運動療法を理解する	2後	20	1	○	△		○	○		
47	○		内部疾患運動療法	呼吸器や循環器系の疾患に対する運動療法を理解する	2後	20	1	○	△		○		○	
48	○		神経筋疾患運動療法	神経筋疾患に対する運動療法を理解する	2後	20	1	○	△		○	○		
49	○		小児疾患運動療法	脳性麻痺を中心に小児整形疾患に対する運動療法を理解する	2後	20	2	○	△		○		○	
50	○		整形疾患運動療法	代表的な整形疾患に対しての運動療法を理解する	2後	20	1	○	△		○	○		
51	○		スポーツリハビリテーション	スポーツ外傷・障害に対するリハビリテーションについて理解を深める	2前	20	1	○	△		○		○	
52	○		物理療法Ⅰ	温熱療法, 寒冷療法, 光線療法, 電気療法, 水治療など基本的な物理療法を学ぶ	1後	30	1	○	△		○	○		
53	○		物理療法Ⅱ	生理学的知識に加え, 各々の物理療法におけるリスク・機器管理について学ぶ	2前	60	2	○	△		○	○		
54	○		義肢装具学Ⅰ	体幹や上下肢の装具について理解する	2前	30	1	○	△		○	○		
55	○		義肢装具学Ⅱ	実際に装具を製作し, 装着しながら理論とその選択を学ぶ	2後	30	1	○	△		○	○		
56	○		日常生活活動Ⅰ	概念, 基本動作, 複合動作, 評価, と基本的指導方法を理解する	1前	30	1	○	△		○	○		
57	○		日常生活活動Ⅱ	疾患の特徴に応じた正常と異常を比較した動作分析を学ぶ	2前	30	1	○	△		○	○		
58	○		総合治療論	3年生の臨床実習で必要な具体的な専門知識や技術を学ぶ	3前	40	2	○	△	△	○		△	○

59	○		総合学習Ⅰ	3年生の研究論文への準備段階として文献抄読を行い、また国家試験に向けた準備の仕方について学ぶ	2後	60	1	○	△		○	○		
60	○		総合学習Ⅱ	国家試験に必要な専門基礎知識、専門知識を繰り返し学ぶ	3後	80	2	○			○	○	△	
61	○		総合臨床演習	臨床実習で必要となる実践的な知識と技術を修得する	2後	30	1	△	○		○	○		
62	○		地域リハビリテーション	歴史と現状、考え方と定義、諸サービスについて考える	2前	30	2	○			○	○		
63	○		地域リハビリテーション演習	地域で生活する障害者、高齢者に対する理学療法・作業療法の活用を事例を通して検討し、学ぶ。	3後	15	1	△	○		○	○	△	
64	○		生活環境論	障害者の生活環境や周辺環境について理解を深める	2後	30	2	○	△		○		○	
65	○		臨床実習Ⅰ	臨床現場の見学を通してセラピストの役割等を理解する	1後	45	1				○	○	○	
66	○		臨床実習Ⅱ	評価実習として知識・技術を対象者に実践・応用する力を習得する	2後	315	7				○	○	○	
67	○		臨床実習Ⅲ	臨床チームに参加し、職業的な知識、思考法、技能、態度の基本を学ぶ	3前	720	16				○	○	○	
合計				67科目	3000単位時間(103単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
第2学年までの全科目を履修し、第3学年に進級をしたものを対象に、最終年度の最初に、卒業要件について資料を配布の上、説明する。 卒業年次に履修が必要な科目の明示と単位修得に必要な具体的課題の説明。以下4科目の単位を全て単位修得することが卒業の条件となる。 ①総合治療論（2単位40時間）：前期講義全般の出席と課題ノートの提出 ②臨床実習Ⅲ（16単位720時間）：実習への出席と課題の提出及び発表 ③地域リハビリテーション演習（1単位15時間）：後期講義の出席と課題（事例検討）のまとめと提出 ④総合学習Ⅱ（2単位80時間）：後期国家試験対策講義への出席と卒業試験 卒業試験については、内容と成績判定についての基準を説明。成績判定は6割以上を合格基準とし、複数回の卒業試験と再試験を実施している。全教員で行う卒業判定会議で卒業試験による成績を並べ、基準を満たす学生には卒業を認定している。		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	19週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。